

# NEWアダージオKT

変額個人年金保険Ⅱ型2003

<自由選択コース>

## 特別勘定の月次運用レポート 2024年2月末現在

- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート

### 変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

- 変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
  - 受取総額が一時払保険料相当額を下回ること(元本割れリスク)があります。
  - 保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.10%の割合で資産残高から毎日控除されます。
  - 運用関係費用:ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.243%(税抜1.13%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
  - 年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
  - 解約控除:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の解約、一部解約(特別引出を除く)をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%~1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
- ※解約控除対象額は、解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

\*この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用」)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費」)」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約控除」がかかります。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

### [引受保険会社] オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。

ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

# 市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	7.94%	16.96%	20.07%	42.71%	35.21%
	TOPIX(東証株価指数)	4.89%	12.67%	14.74%	34.24%	43.51%
日本債券	NOMURA-BPI総合	0.32%	0.01%	▲ 0.23%	▲ 0.72%	▲ 4.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	4.71%	12.85%	14.32%	34.84%	73.35%
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	1.24%	3.10%	5.53%	15.39%	17.55%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	2.11%	2.45%	3.06%	10.52%	41.81%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移



※上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



※上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 特別勘定(ファンド)グループ

## 特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				主な投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
日本株式グロース ファンド FIE	●				フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA5*	フィデリティ投信株式会社	97.0%	3.0%	2,410
日本株式インデックス ファンド225 DW	●				ダイワ・ストックインデックス ファンド225VA*	大和アセットマネジメント株式会社	96.2%	3.8%	1,153
世界株式グロース ファンド NK	●	●			グローバル成長株ファンド	日興アセットマネジメント株式会社 【運用再委託会社】 ウエリントン・マネージメント・カンパニー・ エルエルビー	96.1%	3.9%	587
外国債券ファンド PJ				●	ピムコ・海外債券ファンド*	ピムコ ジャパン リミテッド	99.0%	1.0%	254
世界バランスファンド GSB	●	●	●	●	ダ・ヴィンチ VA2	ゴールドマン・サックス・アセット・ マネジメント株式会社	97.5%	2.5%	378
世界バランスファンド FIA	●	●	●	●	フィデリティ・バランス・ ファンドVA1*	フィデリティ投信株式会社	97.1%	2.9%	686
マネーファンド MB			●		三菱UFJ MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	三菱UFJアセットマネジメント 株式会社	97.0%	3.0%	215

\* 適格機関投資家専用設定される投資信託です。

## 投資信託の運用方針

主な投資対象の投資信託	運用方針
フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA5*	成長企業の株式に投資することにより、TOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行います。
ダイワ・ストックインデックス ファンド225VA*	主に日本の上場株式に投資し、日経平均トータルリターン・インデックス(日経225(配当込み))に連動する投資成果の獲得を目指します(投資対象銘柄のうち200銘柄以上に、原則として等株数投資を行いません)。
グローバル成長株ファンド	主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見て競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。※1
ピムコ・海外債券ファンド*	主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。
ダ・ヴィンチ VA2	日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。
フィデリティ・バランス・ ファンドVA1*	主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および短期金融商品に分散投資し、合成ベンチマークの配分を中心とした資産配分によって投資成果の獲得を目指します。
三菱UFJ MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの(為替リスクの生じないもの)に限ります。

\* 適格機関投資家専用設定される投資信託です。

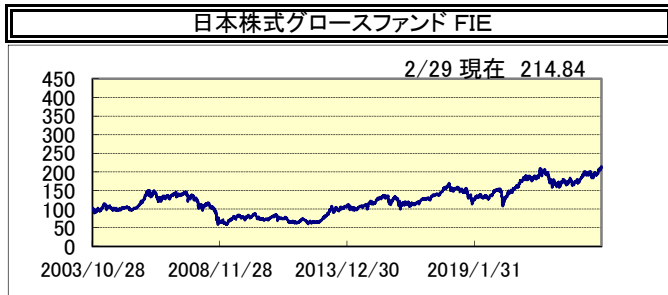
※1 2024年1月にベンチマークを変更しましたが、実質的な運用方針に変更はございません。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

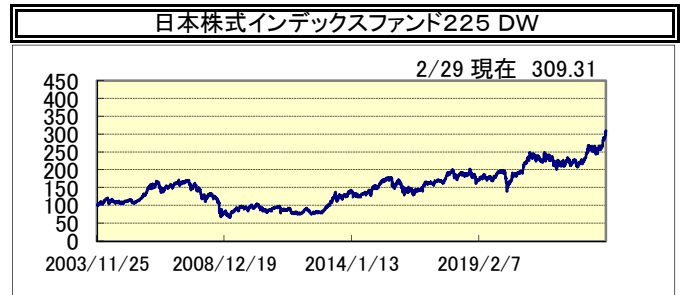
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

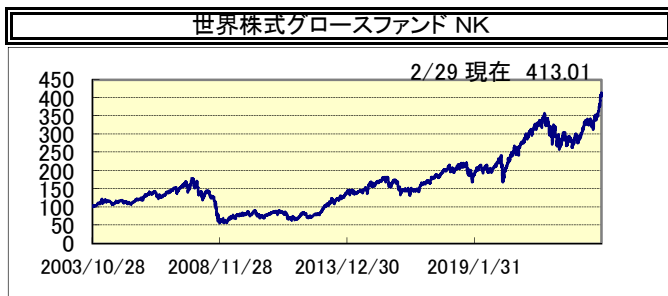
# 特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移



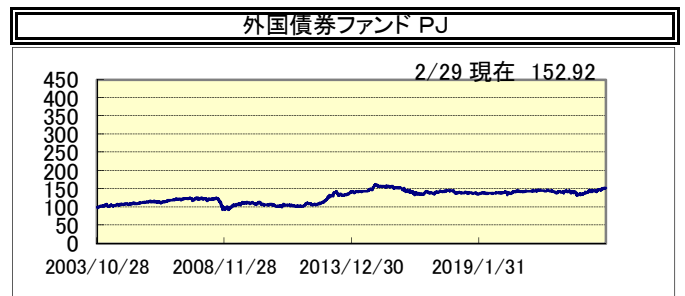
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.51%	9.10%	8.31%	23.41%	20.09%	114.84%



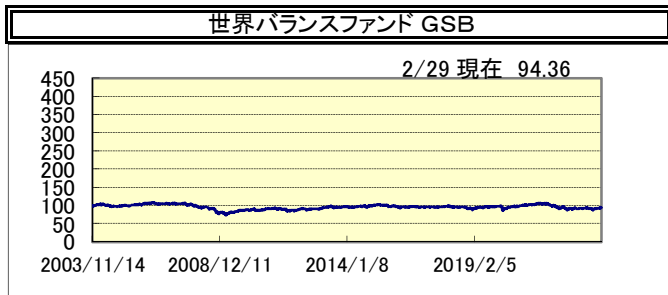
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	7.52%	16.00%	19.07%	40.32%	30.64%	209.31%



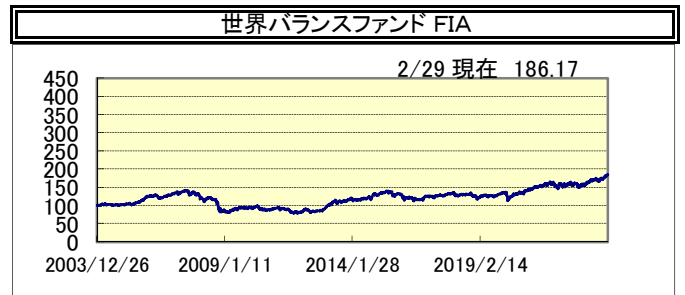
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	7.63%	19.40%	22.31%	41.42%	43.18%	313.01%



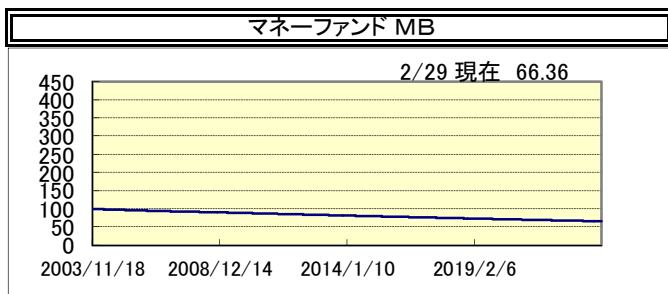
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.00%	2.62%	4.65%	12.41%	6.98%	52.92%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.37%	2.35%	0.96%	3.14%	-6.21%	-5.64%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.50%	6.55%	6.95%	17.35%	28.70%	86.17%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-0.17%	-0.52%	-1.04%	-2.08%	-6.08%	-33.64%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式グロースファンド FIE

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA5 (適格機関投資家専用)

【運用会社】

フィデリティ投信株式会社

## 主要投資対象

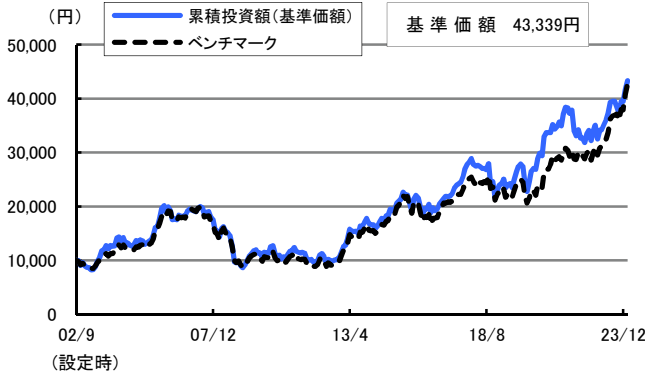
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本成長株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

成長企業の株式に投資することにより、TOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。

## 設定来の運用実績

(2024年2月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## コメント

(2024年2月29日現在)

当月の東京株式市場は、日米企業による好調な決算発表などが手掛かりとなって、半導体関連株をはじめとする主力株が力強く上昇し、日経平均株価は史上最高値を更新しました。米国で早期の下り期待が後退したことなどから一進一退の推移が始まりましたが、主要企業による好決算や株主還元策の発表が続いたこと、また日銀副総裁の発言を受けてマイナス金利が解除された後も緩和的な金融環境が続くとの見方が広がり、それに伴って円安が進んだことなどを背景に、株価は騰勢を強めていきました。大手テクノロジー株の好決算を材料に上値を追う米国株と共に、日本株も半導体関連株をはじめとする主力株を牽引役として上昇する展開が続く、月半ばには日経平均株価が38,000円台を回復、その後は相場の過熱感が意識されて伸び悩んだものの、人工知能(AI)向け半導体大手から好決算が発表されると急伸し、22日に日経平均株価は1989年12月に付けた過去最高値を突破して初めて39,000円台に到達しました。その後の株価推移は緩やかとなりましたが、日経平均株価は39,000円台を維持したまま月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.93%、日経平均株価は+7.94%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

## ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

### 資産別組入状況

株式	98.8%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	1.2%

### 市場別組入状況

東証プライム	96.3%
東証スタンダード	2.0%
東証グロース	0.4%
その他市場	-

### 組入上位5業種

電気機器	21.8%
化学	8.2%
銀行業	8.1%
輸送用機器	6.4%
機械	6.4%

(対純資産総額比率)

- \* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
- \* 業種は東証33業種に準じて表示しています。
- \* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

## 累積リターン

(2024年2月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.77%	9.89%	9.67%	26.69%	28.59%	333.39%
ベンチマーク	4.93%	12.87%	16.01%	37.64%	54.38%	328.61%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク: TOPIX(配当込)

\* TOPIX(配当込)は、日本の株式市場を広く網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。

\* 東証株価指数(TOPIX)(以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

## 過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第18期(2019.12.02)	0円
第19期(2020.11.30)	0円
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円

## 純資産総額

23.4 億円

(2024年2月29日現在)

## 組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.8%
2	キーエンス	電気機器	3.8%
3	ソニーグループ	電気機器	3.6%
4	伊藤忠商事	卸売業	3.3%
5	東京エレクトロ	電気機器	3.2%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.0%
7	日立製作所	電気機器	2.9%
8	信越化学工業	化学	2.7%
9	トヨタ自動車	輸送用機器	2.1%
10	オリエンタルランド	サービス業	2.0%

(組入銘柄数: 183)

上位10銘柄合計 30.3%

(対純資産総額比率)

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
日本株式インデックスファンド225 DW

【特別勘定が投資する投資信託】  
適格機関投資家専用・ダイワ・ストックインデックスファンド225VA

【運用会社】  
大和アセットマネジメント株式会社

## 主要投資対象

日本の上場株式。主にストックインデックス225・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

わが国の株式市場の動きを長期的にとらえることを目標に、日経平均トータルリターン・インデックスをモデルとして運用を行います。

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## 《基準価額・純資産の推移》

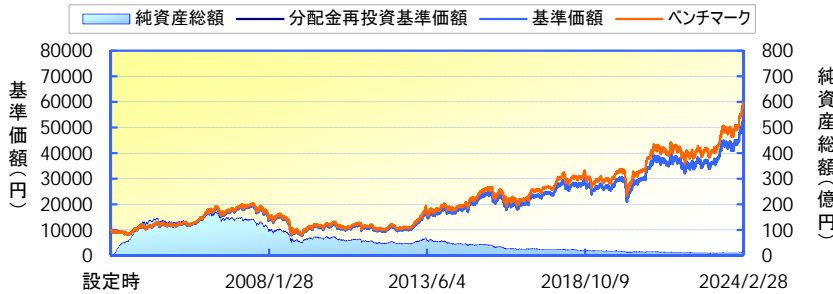
当初設定日(2002年9月24日)～2024年2月29日

2024年2月29日時点

基準価額	52,381円
純資産総額	11.08億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月間	+8.0%	+8.0%
3カ月間	+17.1%	+17.2%
6カ月間	+20.9%	+21.2%
1年間	+44.9%	+45.7%
3年間	+40.9%	+43.5%
5年間	+96.9%	+102.4%
年初来	+17.0%	+17.1%
設定来	+423.8%	+493.8%



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しております。

※当ファンドは日経平均トータルリターン・インデックスをベンチマークとしておりますが、同指数を上回る運用成果を保証するものではありません。

※2023年6月1日に、当ファンドのベンチマークを「日経平均株価」から「日経平均トータルリターン・インデックス」に変更しました。

※グラフ上のベンチマークは、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

## 《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	合計	分配金
第1～15期	合計:	0円
第16期	(18.09)	0円
第17期	(19.09)	0円
第18期	(20.09)	0円
第19期	(21.09)	0円
第20期	(22.09)	0円
第21期	(23.09)	0円

分配金合計額

設定来:0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

## 《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

### 資産別構成

資産	銘柄数	比率
国内株式	225	97.5%
国内株式先物	1	2.4%
不動産投資信託等	---	---
コール・ローン、その他	---	2.5%
合計	226	---

### 国内株式市場・上場別構成

市場	比率
東証プライム市場	97.5%
東証スタンダード市場	---
東証グロース市場	---
地方市場・その他	---

### 組入上位10銘柄

銘柄名	東証33業種名	比率
ファーストリテイリング	小売業	10.8%
東京エレクトロン	電気機器	9.2%
アドバンテスト	電気機器	4.6%
ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.4%
信越化学	化学	2.6%
KDDI	情報・通信業	2.3%
TDK	電気機器	1.9%
テルモ	精密機器	1.9%
ファナック	電気機器	1.8%
ダイキン工業	機械	1.8%

### 国内株式業種別構成

東証33業種名	比率
電気機器	27.9%
小売業	12.7%
情報・通信業	10.0%
化学	6.5%
医薬品	5.7%
輸送用機器	4.7%
機械	4.3%
サービス業	3.9%
精密機器	3.7%
その他	18.1%

### 組入上位10銘柄

東証33業種名	比率
小売業	10.8%
電気機器	9.2%
電気機器	4.6%
情報・通信業	4.4%
化学	2.6%
情報・通信業	2.3%
電気機器	1.9%
精密機器	1.9%
電気機器	1.8%
機械	1.8%

## ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

当ファンドは、主にストックインデックス225・マザーファンド受益証券に投資するファミリーファンド方式のインデックスファンドです。

マザーファンドでは、原則として日経平均株価構成銘柄すべてを組み入れて運用を行っております。

今後の運用につきましても、マザーファンドへの投資を通じて、ベンチマークへの運動を目指し、マザーファンドでは原則として日経平均株価採用銘柄すべてに等株数投資を行い、株式の組入比率は高位を保ちます。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。

したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

## 【特別勘定名】

### 世界株式グロースファンド NK

【特別勘定が投資する投資信託】

グローバル成長株ファンド

【運用会社】

日興アセットマネジメント株式会社

【運用再委託会社】

ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

## 主要投資対象

主に先進各国の証券取引所上場株式。主にGグロース/海外株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見ても競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。

(データは2024年2月29日現在)

[純資産総額] 66.32億円

[決算日] 原則3月25日

[設定日] 2001年10月2日

[基準価額] 61,841円

[信託期間] 無期限

[為替ヘッジ率] 0.0%

### <運用担当者のコメント>

2月のグローバル株式は上昇しました。米国市場は、1月の米雇用統計が市場予想を上回る内容となり早期利下げ観測が後退しましたが、底堅い米国経済を好感し堅調に推移しました。1月の米消費者物価指数(CPI)を受け早期利下げ観測が一段と後退すると一時的に調整したものの、押し目買いから上昇に転じ、その後はNVIDIAの好決算を追い風に上げ幅が拡大しました。主要指数が最高値を更新し高値警戒感が強まるなか、成長期待の大きい半導体株が下支えしました。欧州市場は、英米の利下げ観測を巡る動きとなったのち、好業績銘柄を物色する動きが優勢となり上昇しました。アジア市場も世界的なハイテク株高が追い風となったほか、中国の景気改善への期待の高まりから上昇しました。

当月は、英国の半導体設計会社や、米国のエナジードリンクメーカーの株価が上昇したことはプラス寄与となりました。一方で、日本の家庭・業務用電気製品メーカーや、米国のがん検出剤メーカーの株価が下落したことはマイナス寄与となりました。投資行動としては、当月はインドの建設会社・重機メーカーを購入しました。一方で、英国の半導体設計会社や、米国に本社を置く世界的なインターネット検索プロバイダーを売却しました。

2月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは、コミュニケーション・サービス、一般消費財・サービス、情報技術などで、対してアンダーウェイトとしているのは、金融、素材、ヘルスケアなどです。

今後も銘柄選択ならびにセクター選択を重視し、世界のリーディング・カンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっていきます。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

### <分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	7.95%	20.47%	24.12%	45.47%	53.98%	564.38%
指数	4.94%	13.25%	15.19%	37.13%	78.85%	585.22%

基準価額のパフォーマンスは、当ファンドに分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

### <分配金込み基準価額の指数化グラフ>

(2021年2月26日を100として指数化)



基準価額は信託報酬控除後の値です。

基準価額は当ファンドに過去3年間、分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

「指数」は、MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)です。MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、MSCI, Inc.に帰属します。

2024年1月26日に、当ファンドのベンチマークを「MSCI-WORLDインデックス(円ベース)」から「MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」に変更しました。

### <株式組入上位10銘柄> (銘柄数 57銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	AMAZON.COM INC	アメリカドル	一般消費財・サービス流通	6.0%
2	NVIDIA CORP	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	5.5%
3	MICROSOFT CORP	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	5.2%
4	ALPHABET INC-CL C	アメリカドル	メディア・娯楽	4.1%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカドル	メディア・娯楽	3.9%
6	ELI LILLY & CO	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
7	MASTERCARD INC - A	アメリカドル	金融サービス	3.1%
8	UBER TECHNOLOGIES INC	アメリカドル	運輸	3.0%
9	ADVANCED MICRO DEVICES	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	2.7%
10	AIRBUS GROUP SE	ユーロ	資本財	1.9%

「株式組入上位5カ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。

「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

このレポートでは基準価額を1万円当たりで表示しています。

このレポートのグラフやデータ等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

### <資産構成比>

国内株式(先物含む)	3.6%
外国株式(先物含む)	91.1%
C B	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	5.3%

### <株式組入上位5カ国>

	国名	比率
1	アメリカ	66.8%
2	オランダ	7.0%
3	フランス	4.6%
4	日本	3.6%
5	アイルランド	3.1%

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
外国債券ファンド PJ

【特別勘定が投資する投資信託】  
ビムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

【運用会社】  
ビムコジャパンリミテッド

## 主要投資対象

日本を除く世界各国の各種公社債。

## 運用方針

主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。

[追加型証券投資信託 / ファンドオブファンズ]

[設定日] 2002年9月24日

[基準価額] 24,572 円

[決算日] 毎年9月25日

## 1. パフォーマンス



## 騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年	設定来
ファンド*	1.17%	3.20%	5.84%	15.20%	7.11%	4.28%
ベンチマーク**	1.24%	3.10%	5.53%	15.39%	7.60%	3.86%
超過収益	-0.07%	0.10%	0.31%	-0.19%	-0.49%	0.42%

\*信託報酬控除後、1年を超える期間は年率換算してあります。

\*\*2022年12月15日以降はFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)。

それ以前は、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)90%、ICE BofA TONAR オーバーナイトレートインデックス10%を合成したものを使用しています。

## 分配実績

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期		
日付	03/09/25	04/09/27	05/09/26	06/09/25	07/09/25	08/09/25	09/09/25	10/09/27	11/09/26	12/09/25		
金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円		
	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	累計
日付	13/09/25	14/09/25	15/09/25	16/09/26	17/09/25	18/09/25	19/09/25	20/09/25	21/09/27	22/09/26	23/09/25	-
金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

PIMCO

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。



# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
外国債券ファンド PJ

【特別勘定が投資する投資信託】  
ビムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

【運用会社】  
ビムコ ジャパン リミテッド

## 主要投資対象

日本を除く世界各国の各種公社債。

## 運用方針

主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。

## 2. ファンド特性

### 【ファンドの一般的特性】

平均クーポン	3.79%
平均直接利回り	4.01%
平均最終利回り	4.48%
平均デュレーション(年)	6.39
平均償還期間(年)	8.16
平均格付け*	AA+
債券組入比率	99.41%

\*平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付けではありません。

### 【格付構成比】

格付	組入比率
AAA	76.30%
AA	6.00%
A	10.65%
BBB	6.96%
BB以下	0.10%
A1/P1	0.00%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

### 【国別配分】

国名	組入比率
アメリカ	35.92%
ユーロ圏	35.21%
イギリス	11.84%
オーストラリア	5.98%
中国	4.46%
カナダ	3.68%
デンマーク	1.81%
その他	1.11%
合計	100.00%

### 【種類別配分】

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	66.66%
モーゲージ債、アセットバック債	16.02%
社債	5.02%
キャッシュ等*	12.30%
合計	100.00%

\*「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

## 3. 運用担当者のコメント

### 《市場コメント》

米国債券相場は、月初、1月末に発表された米地銀の赤字決算を背景に金融不安が再燃したことから上昇して始まったものの、1月の米雇用統計が市場予想を大幅に上回ると下落に転じました。その後も、1月の米CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことや、1月のFOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨においてFRB(米連邦準備制度理事会)の早期利下げに対する慎重姿勢が改めて確認されたことなどが下落要因となり、月を通じてみると米国債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.41%上昇、10年債利回りは前月比0.34%上昇しました。)欧州債券相場は、月前半、市場予想を上回った1月のユーロ圏コアインフラ率などを背景にECB(欧州中央銀行)高官が早期利下げに対して慎重な見方を示したことから下落しました。月後半にかけても、2月のユーロ圏総合PMI(購買担当者景気指数)の改善を受けて域内の景況感が持ち直しているとの見方が広がるなか、上値の重い展開が続きました。月を通じてみると欧州債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.47%上昇、10年債利回りは前月比0.25%上昇しました。)英国債券相場は、月前半、2023年9-11月の英失業率の下方修正や1月の英雇用統計における賃金上昇率の上振れなど、雇用環境の改善を背景に下落しました。その後も、1月の英小売売上高が約3年ぶりの大幅な伸びを記録したほか、2月の英総合PMIも堅調な内容となったことを受け、早期利下げ観測が後退し、一段と下落しました。月を通じてみると英国債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.04%上昇、10年債利回りは前月比0.33%上昇しました。)日本債券相場は、根強い日銀の政策修正観測や米国の金利上昇などが重しとなった一方、日経平均株価が過去最高値を更新する中で機関投資家によるリバランスに伴い株売り・債券買いが増えるとの思惑などが下支えとなり、月を通じてみると上昇しました。(2年債利回りは前月比0.10%上昇、10年債利回りは前月比0.02%低下しました。)

### 《パフォーマンス》

先月のパフォーマンスはプラス1.17%となり、ベンチマークを0.07%下回りました。米国の金利リスクを少なめとしたことがプラスに寄与した一方、英国やカナダの金利リスクを多めとしたことがマイナスに寄与しました。

### 《今月の運用方針》

2023年、主要先進国は当初の想定を上回る経済成長率を達成したものの、2024年は景気後退もしくは緩やかな景気減速となることを予想しています。インフレ率の低下に伴い、欧米では利上げサイクルは終了した可能性が高く、市場では利下げの開始時期やそのペースに注目が集まっています。PIMCOは、日本以外の先進国では2024年半ばに利下げが開始され、日本については緩やかなペースでの利上げが模索されると予想しています。歴史的には、失業率の上昇など景気後退が明確に確認できるまで中央銀行は利下げを開始しない傾向にあるため、利下げの開始時期は市場の想定よりも遅くなる可能性が高いものの、一旦利下げを開始した場合には市場の予想よりも積極的に政策金利を引き下げるとみられています。米国については、FRBによる積極的な金融引き締め、米地方銀行の経営破綻、地政学リスクの高まりといったマイナス要因にも関わらず、2023年の景気は底堅いものとなりました。2024年の成長率は2023年に比べて低下するとみられているものの、過去の低金利時において長期固定金利での住宅ローンの借入れを行った世帯の割合が多いことから金利上昇が消費に与えるマイナスの影響が相対的に少ないため、他の主要先進国対比では底堅い成長を予想しています。コロナショックにより停滞がみられたサプライチェーン(供給網)の改善が引き続きインフレ圧力の緩和に繋がる一方、生産性が大幅に改善しない限り、労働市場の逼迫などによる賃金への上昇圧力を背景にインフレ率はFRBの目標水準を上回って推移する可能性が高いとみられています。なお、PIMCOでは、失業率の上昇などによる景気の悪化を背景に2024年半ばには利下げが開始されるとみられています。ユーロ圏については、中国との貿易が低迷していることやロシアによるウクライナ侵襲を背景としたエネルギー・ショックによる影響が長期化していることに加えて、エネルギー関連措置の撤廃などに伴い引き締めの財政政策が想定されることなどから、2024年はマイナス成長に陥る可能性が高いとみられています。金融政策については、域内のインフレ率の低下や景気見通しの悪化を背景に利上げ局面は終了したとみっていますが、同地域のインフレ率がECBの目標値である2%にまで低下するには相應の時間を要することから、政策金利は当面は据え置き、利下げに転じるのは2024年半ばになるものと考えています。ファンドの運用に際しては、他主要国対比で投資妙味が高いと考えられるオーストラリアや英国、カナダの金利リスク量を若干多めにする一方、米国や欧州、中国の金利リスクを少なめとし、全体では金利リスクを少なめとします。セクター戦略については、リスクを考慮しても魅力的な利回りを提供すると考えられる金融債などの社債に選択的に投資します。また、インフレ率が高まる可能性があることから米物価連動債も選択的に保有を継続します。

\* 将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

市況データ出所:ブルームバーグ

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド GSB

【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

## 主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

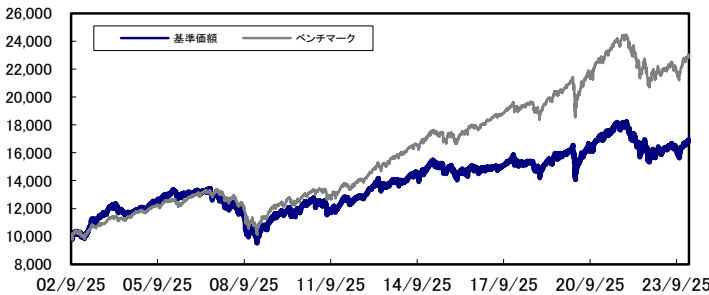
日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日： 2024年2月29日

## 運用の特徴

- 主としてマザーファンドへの投資を通じて、日本を含む先進国を中心とした世界の株式、債券と円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
- 本ファンドのベンチマークは、MSCIワールド・インデックス40%+JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)40%(ともに為替円ヘッジ、円ベース)+日本円1か月TIBOR 20%を使用しております。
- 為替は100%円ヘッジを基本としています。
- 資産配分比率、株式・債券・通貨の国別配分比率の変更を行い、収益の向上を目指します。
- コンピューター・モデルを用いた計量運用を行います。
- 本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

## 設定来の実績 (2002年9月25日)



(注)上記のグラフは基準価額(信託報酬控除後、課税前分配金再投資)およびベンチマークを、設定日を10000として指数化した実績です。

## 騰落率

	実績	ベンチマーク
過去1ヶ月	0.55%	1.22%
過去2ヶ月	1.23%	1.43%
過去3ヶ月	2.94%	3.84%
過去6ヶ月	2.06%	3.55%
過去1年	5.42%	6.54%
過去2年	-1.90%	-1.81%
過去3年	-0.49%	2.51%
設定来	68.86%	130.42%

(注)分配金再投資の基準価額の騰落率です。下記※もご覧ください。

## 基準価額および純資産総額

基準価額	16,886円
設定来分配金	0円
純資産総額	3.7億円

(注)基準価額は分配落ち後のものです。

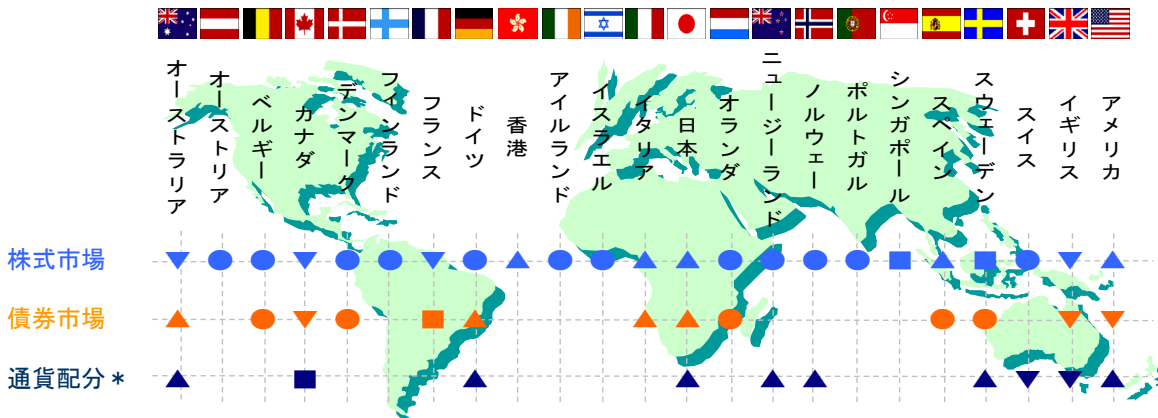
## 資産構成

	基本アセットミックス	ファンド
世界株式	40.0%	47.2%
世界債券	40.0%	43.7%
円短期金融商品	20.0%	9.1%
合計	100.0%	100.0%

※上記の基準価額、分配金再投資基準価額およびファンドの期間別騰落率は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額およびファンド(分配金再投資)の騰落率は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。本ファンドの騰落率はベンチマークと比較して評価することは、特に1年未満程度の短期間については資産の評価時点や評価為替レート等の差異の影響が相対的に大きく、必ずしも適切でない場合がありますのでご注意ください。また、ベンチマークには直接投資することはできず、費用や流動性等の市場要因なども考慮されておりません。

## ポジション(リバランス時)

- ▲ オーバーウェイト
- ▼ アンダーウェイト
- 上下 1%未満



\* ユーロにつきましては、ドイツで表記しております。

※●印のついていない部分は、ベンチマーク構成国ではあるがリバランス時点でファンドに組み入れていないものです。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性を一切保証しません。
- 特別勘定の運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド GSB

【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

## 主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日： 2024年2月29日

## 2024年2月の市場動向

◎2月の世界株式は4.6%程度の上昇(MSCI世界株式指数;配当込;現地通貨ベース)となりました。2月の世界株式市場は上昇傾向となりました。国別に見ると、アメリカでは約5.4%の上昇、ドイツでは約4.6%の上昇、フランスでは約3.0%の上昇、イギリスでは約0.7%の上昇となりました。日本国内の株式は約5.5%の上昇となりました。

◎2月の世界債券は0.9%程度の上昇(JPモルガン世界国債指数;現地通貨ベース)となりました。2月の世界債券市場は下落傾向となりました。国別に見ると、アメリカでは約1.3%の上昇、ドイツでは約1.6%の上昇、イギリスでは約1.1%の上昇となりました。日本国内の債券は約0.4%の上昇となりました。

## 投資対象の評価(リバランス時)

### 〈資産クラス間配分〉\*

資産クラス間配分では、世界株式はモメンタムの観点で評価が高いことから、円短期金融商品に対して強気の見通しとしている。世界債券はモメンタムの観点で評価が低いことから、円短期金融商品に対して弱気の見通しとしている。大型株/小型株の配分に関しては、大型株に対してやや強気の見通しとしている。大型株はモメンタムの観点で評価がやや高いことからやや強気の見通しとしている。一般優良株/テクノロジー株間の配分に関しては、モメンタムの観点からテクノロジー株に対して強気の見通しとしている。

### 〈株式国別配分〉

株式国別配分においては、日本やスペインに対して強気の見通しとする一方で、アメリカやフランスに対して弱気の見通しとしている。日本に対しては、リスク・プレミアムおよびマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。スペインに対しては、モメンタムおよびバリュウの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、アメリカに対しては、バリュウおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。フランスに対しては、リスク・プレミアムの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

### 〈債券国別配分〉

債券国別配分においては、イタリアやオーストラリアに対して強気の見通しとする一方で、アメリカやイギリスに対して弱気の見通しとしている。イタリアに対しては、バリュウおよびマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。オーストラリアに対しては、マクロおよびモメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、アメリカに対しては、モメンタムおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。イギリスに対しては、モメンタムおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

### 〈通貨配分〉

通貨配分においては、オーストラリアやアメリカに対して強気の見通しとする一方で、スイスや日本に対して弱気の見通しとしている。オーストラリアに対しては、リスク・プレミアムおよびマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。アメリカに対しては、モメンタムおよびバリュウの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、スイスに対しては、リスク・プレミアムおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。日本に対しては、モメンタムの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

※ 円短期金融商品…一般的に割引国債、コールローン等を指します。また、非円建ての短期金融商品に投資しこれを円ヘッジする場合もあります。

本資料中の資産構成、投資対象の評価等は、過去の一時点におけるものであり、以後変更される場合があります。

\* 株式/債券/円短期金融商品間の資産配分、大型株/小型株間の配分および一般優良株/テクノロジー株間の配分を含みます。

MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与する者(以下総称して「MSCI当事者」といいます)は、MSCIの情報について一切の保証(独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません)を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害(逸失利益を含みます)およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。



# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
マネーファンド MB

【特別勘定が投資する投資信託】  
三菱UFJ MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

【運用会社】  
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

## 主要投資対象

国内外の公社債、CP等の短期金融商品。

## 運用方針

内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの(為替リスクの生じないもの)に限ります。

2024年2月29日現在

## ■資産構成

	評価金額(円)	比率
公社債	0	0.0%
（うち固定債）	(0)	0.0%
（うち変動利付債）	(0)	0.0%
短期金融資産	0	0.0%
（うちコールローン）	(0)	0.0%
（うちCD）	(0)	0.0%
（うちCP）	(0)	0.0%
（うち現先・レポ）	(0)	0.0%
（うち割引手形）	(0)	0.0%
その他資産	695,894,750,220	100.0%
純資産総額	695,894,750,220	100.0%

・固定債・変動利付債以外の債券。

## ■基準価額および純資産総額

基準価額	10,000円
純資産総額	6,958.95億円

## ■ポートフォリオ特性

平均残存日数	19.5日
--------	-------

## ■国内(邦価建)公社債(新株予約権付社債(転換債)を除く)明細表

	額面金額(円)	評価金額(円)	残存期間別組入比率			
			1年未満	1年以上	2年以上	5年以上
国債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地方債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特殊債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金融債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
普通社債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ■債券の格付分布

格付種類	比率
AAA格	0.0%
AA格	0.0%
A格	0.0%
BBB格	0.0%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

## ■短期金融商品(CP・CD)の格付分布

格付種類	比率
A-1格	0.0%
A-2格	0.0%
A-3格	0.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・比率は経過利子等を債券時価に含まず算出しております。・平均残存日数は組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・変動利付債の残存日数は、次回利払日までとして計算しています。・特殊債とは独立行政法人、公庫等の政府関係機関等、いわゆる特殊法人や特殊団体が特別の法律に基づいて発行する債券の総称です。・格付は、R&I、JCR、S&P、Moody'sのうち最も低い格付を表示しています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。  
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。